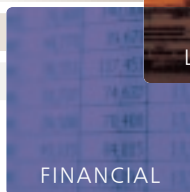


# SBS

## ビジネスレポート

2009年12月期 期末報告書

2009年1月1日～2009年12月31日  
証券コード:2384

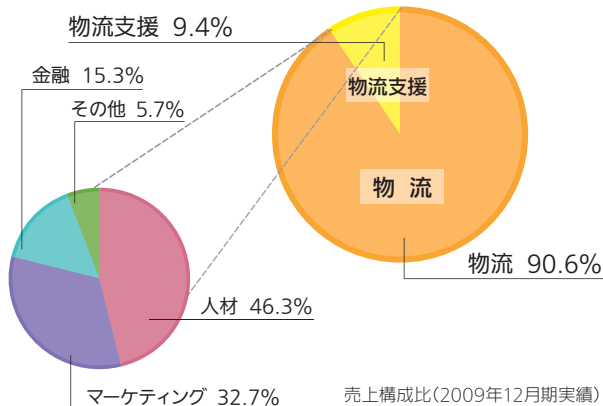


SBSホールディングス株式会社

# SBSグループは、お客様の事業インフラである物流の領域で業務効率化に貢献します。

## 事業の内容

コアビジネスである物流事業と物流支援事業で企業の物流効率化を支援



## 強み

グループ企業が持つ専門性を総合的に束ねることにより、最適なソリューションを提供

多様なグループ企業による

**専門力**

多彩で幅広い事業領域による

**総合力**

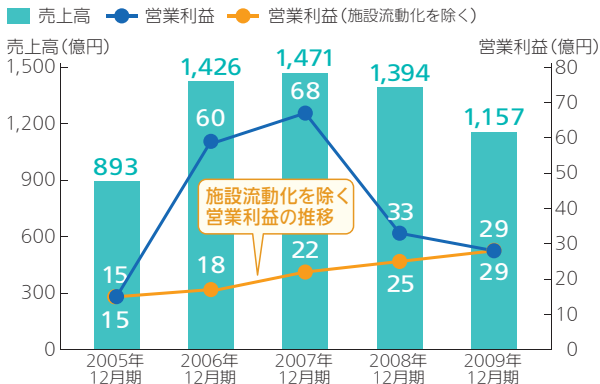
高度で柔軟な

**解決力**

## 業績の概要

不況下においても、主力である物流を中心とした事業の営業利益は順調に推移

【売上高・営業利益の推移】



## 当期の目標

新規営業開発の推進と  
ローコストで高品質な物流サービスの提供

### 2010年重点施策

- 攻撃力(営業力)の強化
- オペレーションの徹底した見直しと強化
- 業界上位を目指し基礎収益力を強化
- コンプライアンス、環境、CSRに配慮した経営

### 2010年計画

売上高	営業利益	売上高営業利益率	1株当たり配当金
<b>1,160億円</b>	<b>32億円</b>	<b>2.8%</b>	<b>2,300円</b>



「どんなに厳しい環境でも、  
立ち止まらず攻め続ける！」

「着実に歩みを進めた1年でした。」

**Q** まず、昨年の外部環境についてお聞きしたいのですが…。

**A** 昨年は、特に輸出入関連・製造業が大きなダメージを受けたほか、当初は比較的堅調であった食品にも年央あたりから買い控えの影響が出るなど、物流業界にとって非常に厳しい1年でした。私たちは中間期が景気の底と考えたのですが、予想を超え長期化しました。

**Q** 業績については、どう評価しますか？

**A** この大不況に対し、当社では大幅なコスト削減や業務改善などに取り組み、生産性と収益力の向上に努めました。その結果、営業利益は前期比

13.1%減となりましたが、経常利益では6.2%減、当期純利益は107.0%増と、厳しい環境下でも、利益率では結果を残せたと考えています。

**Q** 今後の営業力強化に向けた取り組みは？

**A** 新規顧客開拓の専門部署を昨年立ち上げ、期末時点で目標を大きく上回る新規受注を獲得しました。これらは今期につながると期待しています。また、今後の収益の柱となる3PL事業の拡大に向けて、財務と業務の両面から物流の効率化を提案できる営業マンを育成するため、3PL営業育成講座を開設しました。実際のお客様に出向いて行う実地研修で、正式な受注を数件獲得するなど、早期に成果を出しています。将来的には100名規模での強力な3PL営業展開を想定しています。

## 「M & A で企業規模の拡大を。」

**Q** 昨年の暮れにM&Aの発表がありました。この件について教えてください。

**A** 昨年12月にティーエルロジコムと日本ビクターの物流子会社との間で株式取得に関する基本合意に達し、この2月に取得契約を締結しました。当社グループとのシナジーや、電機・家電業界への足掛かりとしても有益であるとの判断から、前向きに検討を進めていたものです。



**Q** M&A戦略の再スタートですね？

**A** 物流業界で勝ち残るために、M&Aは非常に有効な手段と考えています。今後国内の大手企業で物流のアウトソースが進むと予想されます。しかし、それを担える物流企業は、物流業界の上位企業に限定されます。これは、上位企業のもつ物流インフラや物流技術はもちろんです。企業の規模が重視されるためです。今後10年で、それらの上位企業と互角以上に戦える体制を整えるために、これからはM&Aを積極的に検討してまいります。

## 「海外は中国をターゲットに積極展開を。」

**Q** 海外展開についてはいかがですか？

**A** 日本企業にとっても、早晚アジアと日本を一体に捉えないと生き残れない日がやって来ます。そのときのために、私たちは早急に中国での足場を固めなければなりません。今期は中国の現地法人の拡大はもちろん、事業・資本提携の可能性も積極的に探っていきます。

**Q** 中国企業との事業・資本提携ですか？

**A** はい。中国の物流は、まだまだ発展途上で輸送方法も管理方法もしっかりとした手法が根付いていません。中国側も優れた日本の物流システムの導入を望んでいます。しかし、現地の商習慣は複雑で、中国に日本の物流スタイルを導入し、成功させるためには、それらに精通している現地会社の協力が必要です。

## 「成長を感じられ、期待される企業へ。」

**Q** 昨年暮れに「環境報告書」を発行しましたね？

**A** 地球温暖化が深刻化するなか、事業活動のプロセスで多くの環境負荷を与えている物流企業として、環境保全に取り組むことは重要な社会貢献の一つと認識しており、その一環として初の「環境報告書」を発行いたしました。エコドライブや省電力施設の開発、お客様へのモーダルシフトのご提案など、まだ微力ですが、次世代により良い環境を引き継げるよう、積極的に環境保全に取り組んでいきます。

**Q** 今期の業績目標と、それに向けた重点施策は？

**A** 売上高1,160億円(前期比0.3%増)、営業利益32億円(同10.8%増)、経常利益30億円(同20.0%減)、当期純利益20億円(同0.6%増)を見込んでいます。今後の経済環境については不透明で、楽観はできないと考えています。しかし、昨年の逆風下で鍛えた営業開発力、そして、業務の改善や効率化によるローコストオペレーションなどから、売上は横ばいでも営業利益率は上昇傾向を示しており、この数字には自信を持っています。

**Q** 最後に、株主の皆様へのメッセージを。

**A** 今後は財務基盤の強化を優先し、これをM&Aによる規模の拡大、そしてさらなる成長へとつなげていきます。配当政策は業績に配慮しつつも安定的な利益還元を行う方針です。経営のスピードをあげて成長を実感できる企業を目指します。是非、期待してください。



## 中国でのサービスを本格スタート

SBSグループは今後のグローバル戦略の第1歩として、  
 ティーエルロジコムを中心に、世界の経済成長を牽引する  
 アジア諸国を起点とした国際物流サービスの強化に取り組んでまいります。

### グローバル3PLサービス

SBSグループは、中国をはじめとするアジア諸国を  
 起点としたグローバルサプライチェーンを構築する日本  
 企業および海外企業に対し、陸・海・空の輸送モードを  
 最適な組み合わせで提供する複合一貫輸送はもちろん  
 のこと、貿易実務・通関業務といった輸出入関連業務、

さらには流通加工、保管といった庫内オペレーション  
 など様々なロジスティクスサービスをワンストップで  
 ご提供しています。SBSグループの総合力を活かした  
 グローバル3PLサービスの機能は、お客様ニーズの変化  
 および高度化に合わせて、日々進化を続けています。

### 世界から日本へ、日本から世界へ、様々な製品・商品をお届けしています

#### 【国際物流の取扱事例】

【輸 出】 (主な輸出品と輸出国)	
アパレル関連素材	中国
化粧品	中国、韓国
自動車部品	アメリカ、アフリカ 他
建設機械	ロシア、アフリカ 他
石油関連製品	東南アジア諸国
美術品関連	EC諸国

【輸 入】 (主な輸入品と輸入国)	
精密電子機器	韓国、中国
加工食品	ベトナム、タイ、台湾
ワイン	EC諸国
生花	中国
アパレル製品	中国
家具	韓国



輸出される  
建設機械部品



輸入されたワイン  
定温庫で保管されます

## 中国現地法人「天愛陸物流（上海）有限公司」

“世界の工場”のポジションを盤石なものにした中国。ティーエルロジコムでは、そのゲートウェイである上海に中国現地法人「天愛陸物流（上海）有限公司」を設立。保税倉庫および一般倉庫を用意し、アパレル、家電、電子部品など様々な製品を対象にした輸出入業務や流通加工業務などをご提供しています。また、輸配送ネット

ワークは、上海のある華東をはじめ、北京などの華北、香港などの華南といった主要エリアを現地の物流企業や日系物流企業との業務提携を通じて構築。輸出入のみならず、巨大な中国国内市場をターゲットにビジネス拡大を目指すお客様の“国内物流”ニーズにも対応できる体制を整えています。



## 環境への取り組み

当社グループが推進する環境保全への取り組みについて、「SBSグループ環境報告書2009」より事例をご紹介します。

グループの低公害車導入率 **21%**

今日、物流事業の主力を担うディーゼルトラック。しかし、その排出ガスには地球温暖化の主要因である温室効果ガス(CO<sub>2</sub>など)、人体に影響を及ぼす窒素酸化物(NOx)や粒子状物質(PM)が大量に含まれ、環境負荷の大きな要因のひとつとなっています。

SBSグループでは、約3,400台(2008年末)のトラックを保有していますが、輸送条件や用途などを配慮しながら、環境負荷が比較的低い“軽油以外の燃料”を使う車両の導入に積極的に取り組んでいます。具体的には、配送距離が短い個人宅向け配送の小型車には、液化石油ガス(LPG)車を使っています。LPG車は窒素酸化物の排出量が極めて少なく、黒煙や浮遊粒子状物質をほとんど出しません。騒音も少なく個人宅への配送には最適な車両との判断からです。宅配事業を行う全通ではLPG車導入台数がすでに500台を超え、個配用車両の91%を占めています。一方、県内や隣県などへの近距離輸送の中小型車には、燃料供給施設の普及状況を見ながら天然ガス(CNG)車を、また、大量輸送業務や中・長距離の幹線輸送には、最新規制に適合したディーゼル車を代替え、あるいは新規導入し、大気汚染物質の削減に努めています。

こうした対策を進めた結果、2008年末におけるグループの低公害車導入台数は706台、全車両の21%が低公害車と、業界でもトップクラスの導入率を達成しました。今後も環境技術の動向などを見極めながら車両の低公害化を進めていきます。

低公害車導入状況(2008年末)

全車両台数	3,367台
<b>低公害車</b>	
LPG車	523台
CNG車	106台
ハイブリッド車	13台
尿素車(規制適合車)	64台
低公害車合計	706台
低公害車導入率	21%



全通の個人宅配用低公害車



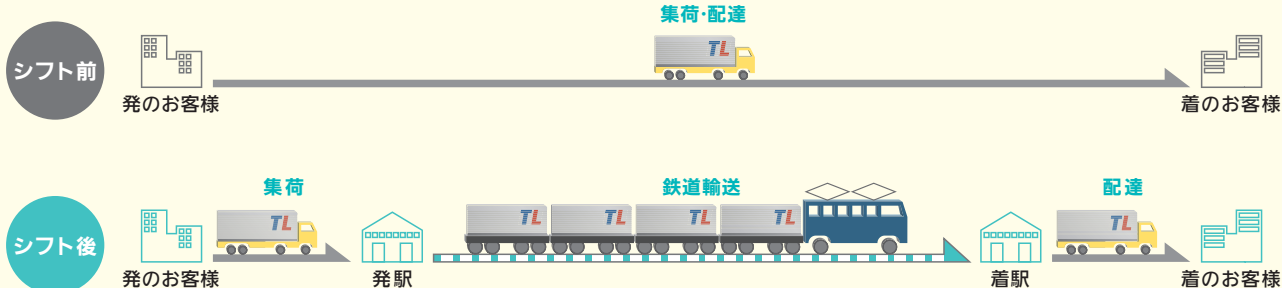
## 鉄道貨物輸送60年。長年の実績を活かしモーダルシフト推進

モーダルシフトとは、トラックが主体となっている長距離貨物輸送の一部を海上輸送や鉄道輸送に切り替え、トラックとの複合一貫輸送を行うこと。このうち、鉄道輸送はCO<sub>2</sub>排出量がトラック輸送のほぼ8分の1と言われ、その削減効果の大きさから、次世代の輸送モードとして注目を浴びるようになっていきます。

ティーエルロジコムでは、約60年にわたって鉄道

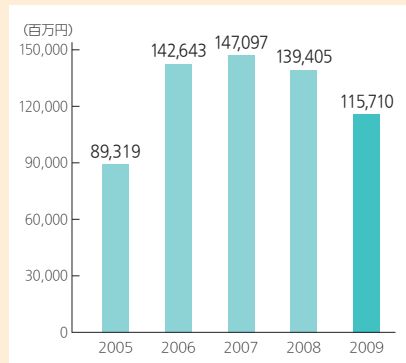
輸送に携わり、多くの貨物を取り扱ってきました。今日、日本全国をカバーする通運ネットワークを構築し、鉄道輸送の両端部分である集荷・配達機能を提供することで、お客様のモーダルシフト推進を強力にサポートしています。今後も長年にわたる鉄道輸送の豊富な実績とノウハウを活かし、環境に優しいモーダルシフトの拡大に積極的に取り組んでいきます。

### モーダルシフトの例

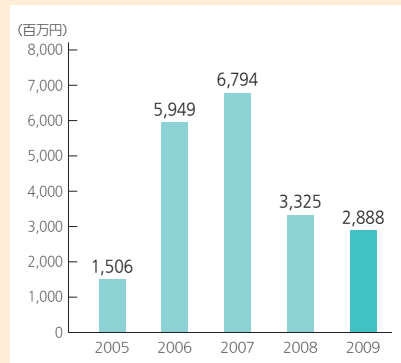


ティーエルロジコムでは31フィートコンテナの導入を進めています。現在、保有しているのは、両ウィングタイプの31フィートコンテナです。コンテナの両サイドからパレット貨物の積み下ろし作業が可能で、従来型の12フィートコンテナに比べ、スピーディーな荷役を実現できます。お客様にとって使い勝手のいいコンテナを用意することで、環境にやさしい輸送モードである鉄道貨物輸送を拡大したいと考えています。

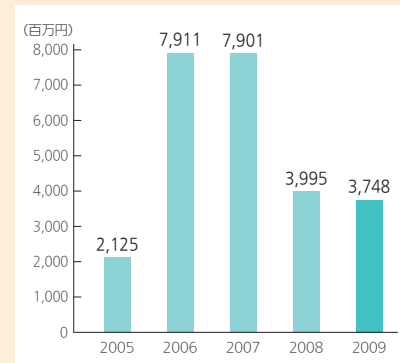
### 売上高



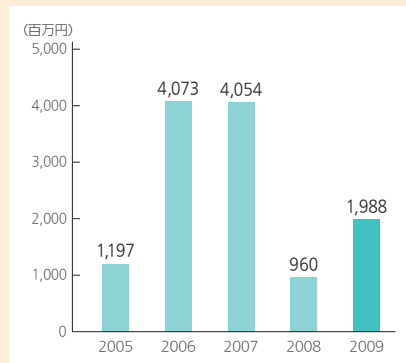
### 営業利益



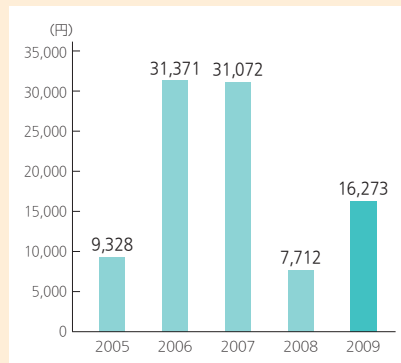
### 経常利益



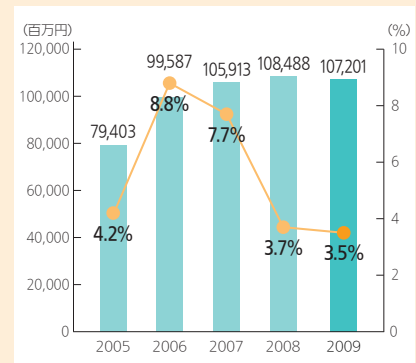
### 当期純利益



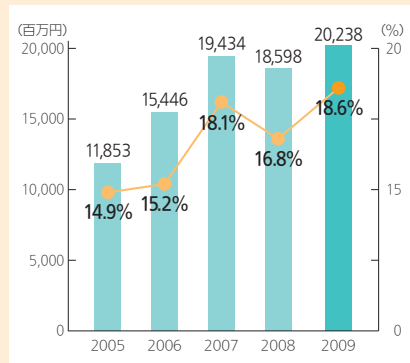
### 1株当たり当期純利益



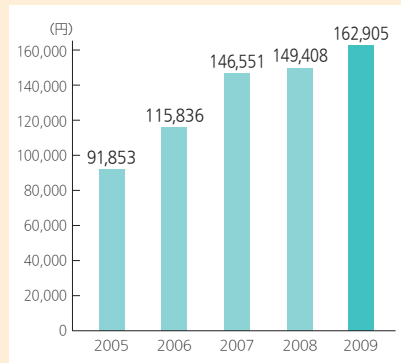
### 総資産/ROA



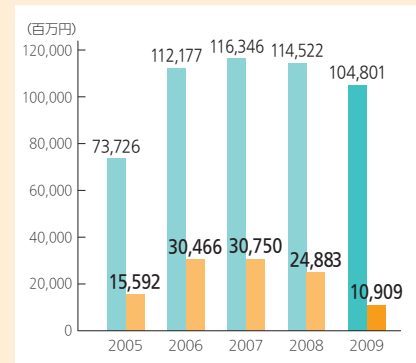
### 純資産/自己資本比率



### 1株当たり純資産



### セグメント別売上高



# 連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

SBSビジネスレポート 2009

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	2009年12月31日現在	2008年12月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	40,106	45,997
現金及び預金	10,485	14,851
受取手形及び売掛金	14,326	16,347
リース債権及びリース投資資産	2,841	-
有価証券	310	10
たな卸資産	10,222	6,097
その他	1,985	8,780
貸倒引当金	△65	△89
固定資産	67,094	62,490
有形固定資産	59,762	55,446
建物及び構築物(純額)	18,096	15,081
機械装置及び運搬具(純額)	3,302	6,009
土地	34,063	33,804
リース資産(純額)	3,943	-
建設仮勘定	-	135
その他(純額)	356	415
無形固定資産	598	544
投資その他の資産	6,733	6,500
投資有価証券	2,751	2,910
差入保証金	2,017	2,177
その他	2,370	1,786
貸倒引当金	△406	△374
資産合計	107,201	108,488

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	2009年12月31日現在	2008年12月31日現在
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	46,214	50,123
支払手形及び買掛金	6,825	8,473
短期借入金	25,680	28,540
その他	13,708	13,110
固定負債	40,749	39,766
社債	1,360	120
長期借入金	23,768	26,881
その他	15,620	12,765
負債合計	86,963	89,890
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	20,707	18,999
資本金	3,833	3,833
資本剰余金	5,418	5,418
利益剰余金	12,242	10,535
自己株式	△787	△787
評価・換算差額等	△800	△742
その他有価証券評価差額金	△624	△559
繰延ヘッジ損益	△176	△182
新株予約権	3	3
少数株主持分	328	338
純資産合計	20,238	18,598
負債純資産合計	107,201	108,488

**流動資産**は、借入金の返済による現預金の減少、売上高の減少および売却子会社の影響による売掛金の減少などにより前期末から58億91百万円減少し、**固定資産**は施設竣工による建物及び構築物の増加、リース会計基準改正の影響によるリース資産の増加などにより46億3百万円増加しました。

**流動負債**は短期借入金の返済、買掛金の減少などにより39億9百万円減少し、**固定負債**はリース債務や繰延税金負債の増加などにより9億82百万円増加しました。

**純資産**は利益剰余金の増加により16億39百万円増加しました。

## 連結財務諸表

### CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

#### 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2009年1月1日から 2009年12月31日まで	2008年1月1日から 2008年12月31日まで
売上高	115,710	139,405
売上原価	104,745	126,844
売上総利益	10,965	12,560
販売費及び一般管理費	8,076	9,234
営業利益	2,888	3,325
営業外収益	1,782	1,675
営業外費用	921	1,005
経常利益	3,748	3,995
特別利益	1,501	1,979
特別損失	823	3,027
税金等調整前当期純利益	4,427	2,947
法人税、住民税及び事業税	1,222	1,219
法人税等調整額	1,203	734
法人税等合計	2,425	1,953
少数株主利益	12	33
当期純利益	1,988	960

#### 【損益計算書】

物流事業は、営業活動の強化、新物流センターの稼働による3PL事業の提供開始など業容の拡大に取り組みましたが、メーカー系物流を中心に荷動きの低下が見られ、売上高は前期比8.5%減となりました。一方、コストの見直しや業務改善活動が奏功し、営業利益は増益を確保しました。

一方、物流支援事業では、全般的に景気低迷の影響を受けましたが、特にマーケティング事業での子会社売却と、金融事業で物流施設の流動化を実施しなかったことが大きく影響しました。その結果、売上高が前期比56.2%減、営業利益が同49.0%減となりました。

#### セグメント別売上高および営業利益

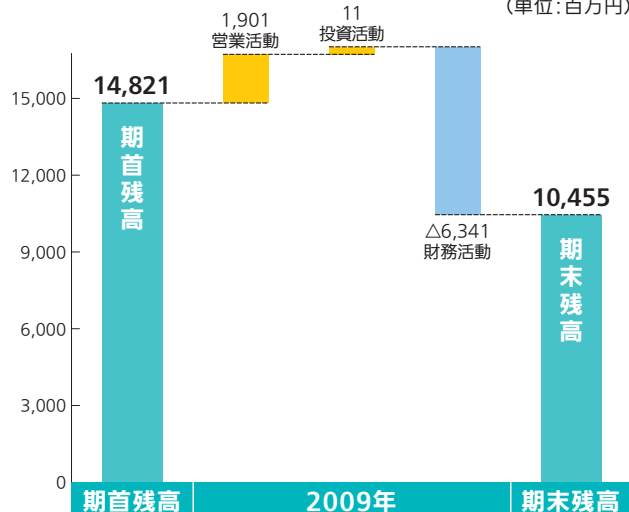
(単位:百万円)

	2009年12月期		2008年12月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
物流事業	104,801	2,699	114,522	2,566
マーケティング	3,572	31	10,293	40
人材	5,045	147	6,895	483
金融	1,670	403	6,608	792
その他	620	△45	1,085	△260
合計(連結消去後)	115,710	2,888	139,405	3,325

## 【キャッシュ・フロー】

営業活動では税金等調整前当期純利益・減価償却費などにより19億1百万円を、投資活動では、有形固定資産の売却・取得があったことなどから11百万円の資金を得ました。財務活動では長期借入金27億円、社債15億51百万円発行などによる資金調達を行った一方で、長期借入金の返済53億9百万円、短期借入金の純減28億60百万円などがあったことにより、63億41百万円の資金が減少しました。この結果、当期末における現金及び現金同等物は前期末から43億66百万円の減少となりました。

連結キャッシュ・フロー (単位:百万円)



連結株主資本等変動計算書 当期(2009年1月1日から2009年12月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計			
2008年12月31日残高	3,833	5,418	10,535	△787	18,999	△559	△182	△742	3	338	18,598
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△281		△281						△281
当期純利益			1,988		1,988						1,988
自己株式の取得				-	-						-
自己株式の処分				-	-						-
連結範囲の変動			0		0						0
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	△64	6	△58		△9	△68
連結会計年度中の変動額合計	-	-	1,707	-	1,707	△64	6	△58	-	△9	1,639
2009年12月31日残高	3,833	5,418	12,242	△787	20,707	△624	△176	△800	3	328	20,238

## 物流事業

### 総合物流事業

#### ティーエルロジコム(株)

総合物流企業としてあらゆる物流ニーズをサポート

#### ティーエルトランスポート(株)

#### ティーエルサービス(株)

#### 日本貨物急送(株)

#### 伊豆貨物急送(株)

### 食品物流事業

#### フーズレック(株)

三温度帯配送を含む食品輸送業務等を全国展開

#### 北海道レック(株)

#### 東北ウイング(株)

#### (株)ウイングトランスポート

#### 中部レック(株)

#### 関西流通システム(株)

#### 九州レック(株)

#### (株)全通

関東圏を中心に生鮮食品の輸配送業務・加工業務等を展開

### 専門物流事業

#### SBSロジテム(株)

首都圏で企業間軽貨物の即日配送業務を展開

## 物流支援事業

### マーケティング

#### (株)ばむ

企業の販売戦略をサポートする広告代理事業を展開

#### マーケティングパートナー(株)

#### (株)フォワード

ダイレクトメール等のメール便サービス事業を展開

### 人材

#### SBSスタッフ(株)

人材派遣や人材紹介等の人材サービス事業を展開

### 金融

#### (株)エーマックス

物流施設を対象とするアセットマネジメント事業等を展開

#### (株)エルマックス

#### SBSファイナンス(株)

リース事業、保険代理事業を展開

### その他

#### (株)ソルス

物流情報システムの設計・開発・運用業務を展開

#### (株)総合物流システム

産業廃棄物回収・中間処理、店舗什器の製造業務等を展開

### 会社概要 (2009年12月31日現在)

社 名 SBSホールディングス株式会社  
 代表取締役 鎌田 正彦  
 創 立 1987年12月16日  
 資 本 金 38億3,393万円  
 売 上 高 1,157億円(2009年12月期連結決算実績)  
 所 在 地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3  
 TEL:03-3829-2222(代表)  
 FAX:03-3829-2822

事 業 内 容 物流事業、マーケティング事業、人材事業 他  
 主要連結子会社 ティーエルロジコム(株)、フーズレック(株)、(株)全通、  
 SBSロジテム(株)、(株)フォワード、(株)ばむ、  
 SBSスタッフ(株)、(株)エーマックス、  
 SBSファイナンス(株)、(株)ソルス、  
 (株)総合物流システム

※SBSポストウェイ(株)は、2009年3月末日に、その全株式を譲渡したことにより、連結対象から除外となりました。

### 役員 (2010年3月30日現在)

代表取締役社長 鎌田 正彦      常勤監査役 若林 民雄  
 常務取締役 入山 賢一      監査役 米田 樹一  
 取締役 宮坂 文昭      監査役 正松本 重孝  
 取締役 渡邊 進一郎      監査役 竹田 正人

監査役のうち、正松本重孝、竹田正人は社外監査役です。

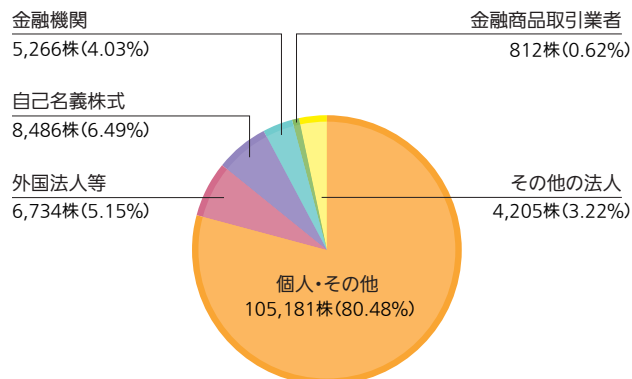
### 株式の状況 (2009年12月31日現在)

発行可能株式総数 ..... 515,684株  
 発行済株式の総数 ..... 130,684株  
 単元株制度の有無 ..... 無  
 株主数 ..... 4,244名

### 大株主の状況 (2009年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
鎌田 正彦	64,128	49.07
SBSホールディングス株式会社(自己保有株式)	8,486	6.49
伊達 寛	4,348	3.32
SBSホールディングス従業員持株会	3,274	2.50
ジェイピーモルガンクリアリングコープクリアリング	3,169	2.42
大内 純一	3,094	2.36
吉岡 博之	1,889	1.44
株式会社スリーイーコーポレーション	1,560	1.19
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	1,348	1.03
日本証券金融株式会社	1,280	0.97

### 所有者別株式分布状況 (2009年12月31日現在)



### ホームページのご紹介

IR情報、IRに関するお問い合わせに当社ホームページをご活用ください。



<http://www.sbs-group.co.jp>

## 株主メモ

---

事業年度 1月1日～12月31日

期末配当金受領株主確定日 12月31日

定時株主総会 毎年3月開催

株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 ジャスダック証券取引所

公告方法 公告掲載URL <http://www.sbs-group.co.jp/>  
※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、  
日本経済新聞に公告いたします。

---

### 【ご注意】

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



**SBSホールディングス株式会社**

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3 オリナスタワー  
TEL:03-3829-2222(代表) FAX:03-3829-2822

